

6:22 その翌日、湖の向こう岸にとどまっていた群衆は、前にはそこに小舟が一艘しかなく、その舟にイエスは弟子たちと一緒に乗らずに、弟子たちが自分たちだけで立ち去ったことに気づいた。

6:23 すると、主が感謝をささげて人々がパンを食べた場所の近くに、ティベリアから小舟が数艘やって来た。

6:24 群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないことを知ると、自分たちもそれらの小舟に乗り込んで、イエスを捜しにカペナウムに向かった。

6:25 そして、湖の反対側でイエスを見つけると、彼らはイエスに言った。「先生、いつここにおいでになったのですか。」

6:26 イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。」

6:27 なくなってしまう食べ物のためではなく、いつまでもなくならない、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい。それは、人の子が与える食べ物です。この人の子に、神である父が証印を押されたのです。」

6:28 すると、彼らはイエスに言った。「神のわざを行うためには、何をすべきでしょうか。」

6:29 イエスは答えられた。「神が遣わした者をあなたがたが信じること、それが神のわざです。」

6:30 それで、彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じられるよう

に、どんなしるしを行われるのですか。何をしてくれますか。

6:31 私たちの先祖は、荒野でマナを食べました。『神は彼らに、食べ物として天からのパンを与えられた』と書いてあるとおりです。」

6:32 それで、イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。モーセがあなたがたに天からのパンを与えたではありません。わたしの父が、あなたがたに天からのまことのパンを与えてくださるのです。」

6:33 神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものなのです。」

6:34 そこで、彼らはイエスに言った。「主よ、そのパンをいつも私たちに与えてください。」

6:35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渇くことはありません。」

6:36 しかし、あなたがたに言ったように、あなたがたはわたしを見たのに信じません。

6:37 父がわたしに与えてくださる者はみな、わたしのもとに来ます。そして、わたしのもとに来る者を、わたしは決して外に追い出したりはしません。

6:38 わたしが天から下って来たのは、自分の思いを行うためではなく、わたしを遣わされた方のみこころを行うためです。

6:39 わたしを遣わされた方のみこころは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしが一人も失うことなく、終わりの日によみがえらせることです。

6:40 わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持ち、わたしがその人を終わりの日によみがえらせることなのです。」

群衆は熱心にイエス様を追い求めました。しかしそれは「パンを食べて満腹した」という御利益があったからです。イエス様は「なくなる食物のためではなく」と言われます。神様のみわざであったとしても、御利益で求めたものはなくなってしまふのです。主は与えてくださいますが、それは「永遠の命に至る」ものを与えたいからです。

それはイエス様への信仰です。それを求めて受けましょう。イエス様を信じるというのは群衆のような信じ方なく、何かをもらえらるというではありません。イエス様が救い主であり、聖め主であり、癒し主であり、全能の従うべき王であることを信じるということです。イエス様はそれを求めておいでなのです。それは信じる者の勝利と祝福になるからです。

群衆はしるしを、すなわち奇跡を求めました。しかしイエス様はしるしではなく、ご自身を示されて、「わたしがいのちのパンです。」と明言なさいました。しるしを求める者よりも、イエス様ご自身を理解して求め、そして受け入れる者を願っておられるのです。自分の欲しいものを求めることは悪ではありません。しかし与えられた、答えられたという満足で終わらずに、主のみこころを求めて従ったことに満足しましょう。

永遠のいのちとそれを伝えることが「父のみこころ」ですから、そのことを続けていきましょう。

- ①神のみこころは？
- ②どんな思いになりましたか？
- ③生き方にどう適用しますか？
- ④この世にあって何を実践しますか？